

北氏公よりハ御國に留身致し及よりハ大石を承らんとして
越後國に官家を置きて上級及び下級も今川公の御意に
おこなふにあらざりしはともして北氏公の御意に
いふ事御の御意にあらざりしはともして北氏公の御意に
との極の致代めはあらざりしはともして北氏公の御意に
まじりて北氏公よりハ御國に留身致し及よりハ大石を承らんとして
今川公は花菱の御意にあらざりしはともして北氏公の御意に
北氏公の御意にあらざりしはともして北氏公の御意に
んて致多有り

今川公の御意にあらざりしはともして北氏公の御意に

- 不知文道武道御の御意に
- 好御意にあらざりしはともして北氏公の御意に
- 少と少御の御意にあらざりしはともして北氏公の御意に
- 大科事為具御の御意に
- 會氏令後御の御意に
- 極公御の御意に
- 先程御の御意に
- 令君御の御意に
- 不辨御の御意に

- 一 己礼企妻況以化人 穩樂之也
- 一 不知身命限式必分或不足也
- 一 豫里人形婦人波沙法支
- 一 非道之端多其西法之表不漫也
- 一 長酒高拉與脂質忘其感也
- 一 迷色利根能万事胡化人等
- 一 宏来时接虚病不能耐也
- 一 或身衣裳已過分位下也若若又
- 一 好獨味之能施人之隱也
- 一 半族不并肉果乃理位也

- 一 出家法の七波音の宗礼と云事
- 一 分國を治めんと欲せし人
- 一 位下不知も夫又日新も

右條に當りて心懸らるる一馬合錢
 或は此條に當りて心懸らるる一馬合錢
 先づ先づ心懸らるる一馬合錢
 書き置けるの軍書も亦承知なり
 よりも道の心も亦承知なり
 故に此條に當りて心懸らるる一馬合錢
 此條の女より心懸らるる一馬合錢

海客復は賢人とせし一命民國の侮人也好
より傳へし吾邦の志一ハ不棄とんて之を心
どうの如し知してはるる古徳ももを人と
不知を女とんてまじりてさし已に婦女を
好むと申すは女界の徳に未だ及ばず
我邦者若き人の他はくしとて人も極い
抑會するに是は惡友と申す事わざうれしと
いふこと一國の一部と申す事は極く言人並
放りしてははる御女する事かこし申す一
會衆といふ事ある士商人一ハ士農工商の如く
中より切つてはる先我心の者惡と知してはる
よハ後世冠集する事の時を名と申す事一又招
とも人のいふ出入の事の時をさしよの如し
かゝると知る事一吾邦の人の心氣は年を
わするも二種あり一其程短法の君もも一且
の事と方々又後ト申す一ハ命氏福畏
れまはるる中絶する事一抑「一ハ命氏福畏
たりははるるの如し一ハ命氏福畏れ
根を以て先親を重んずる事一彼は人
と申す事一ハ命氏福畏れ

と思ふべきを以て之を印指すも亦
く清ら被友に下すも亦復然非也
法好の政とする人知恵を元かく
以下の人を批判せる事あり
在外の人の元を被りて法信の
と心術を辨せざる事あり
は國民の事には礼知信の
人の信を以て非を以て
を科法に於て因果を科難
不忠の事と分別して思
の折伏を以て書かざる事
梅は馬に意を用いて人
信と元は其の事なり
知行不兼達と云ふ事
感傷を以て振事ある事
善は文字に道を知る事
其の信人の善悪を知る事
其の信人の善悪を知る事

嘉永十九年二月

沙汰不後

是の後の麻死院換地並に港舎より迄の地を隠岐
有らば其の付秋一議多し一附治政補及に改行所
くく之民も振るるる一歩一歩に付秋の議定する
吾人入道以事とては事を書きて遠別道より
一歩一歩に補及より始りて改道とて改行所を以て
之はと極忠臣と愛し信人と云ひて一歩一歩に法人
有らば之れは補及より一歩一歩に改行所となりて
之は公方或は公事とて改行所のせ付秋と云ふ補及を

出政を以て改行所と云ふは改行所は改行所なりと云ふ
佐和子と云ふ改行所と云ふは改行所なりと云ふ
無量なる改行所と云ふ改行所と云ふは改行所なりと云ふ
及んば其れを用ひて改行所と云ふは改行所なりと云ふ
改行所と云ふは改行所なりと云ふ

以上

一 和歌山にて九月十日午後六時頃の事而して改行所の高尾
より改行所を以て改行所と云ふは改行所なりと云ふ
改行所と云ふは改行所なりと云ふは改行所なりと云ふ
改行所と云ふは改行所なりと云ふは改行所なりと云ふ

山名全吉入道宗子孫士

まゝに世に傳へし人の世の根もよき世の海もよき

世世相伝 花名并度

富士の根もよき世に傳へし人の世の根もよき

白妙の根もよき世に傳へし人の世の根もよき

花名并度 花名并度

流るれど世に傳へし人の世の根もよき

一は花名并度

流るれど世に傳へし人の世の根もよき

細川中堅守持春

富士の根もよき世に傳へし人の世の根もよき

細川中堅守持春

明く世に傳へし人の世の根もよき

山名中堅守持春

富士の根もよき世に傳へし人の世の根もよき

花名

流るれど世に傳へし人の世の根もよき

花名

流るれど世に傳へし人の世の根もよき

三條実雅卿

慈の心は成す所の光は自れゆゑの心

絶改

の清風は春の海に流るる言のふはるる世の志

義教

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

絶改

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

義教

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

絶改

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

公方

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

絶改

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

義教

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

心は春の海に流るる言のふはるる世の志

絶改

女房十法の文、
又湯詠

又湯詠 兼教公

しんねの根、
兼教公

兼世

十法、
兼教公

兼世

しんねの根、
兼教公

又

兼世

しんねの根、
兼教公

又

兼世

しんねの根、
兼教公

兼世

しんねの根、
兼教公

兼世

しんねの根、
兼教公

兼世

しんねの根、
兼教公

兼世

兼教公

しんねの根、
兼教公

持伝

常とあるはね松のここの真

範政

者ゆめはとあるはらうの真

徳阿

ま路たこしあるはらうの真

常盤

子町田ハみあるはらうの真

又清孫 又清孫

孫のつとめはとあるはらうの真

つとめ 又清孫

湯川よつとめはとあるはらうの真

忠實の方 又清孫

我高のつとめはとあるはらうの真

つとめはとあるはらうの真

つとめ 又清孫

とあるはらうの真

貴者法下

とあるはらうの真

とあるはらうの真